



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
7/11 (月)	+ 800	+ 4,000	+ 4,800	国庫短期証券 発行・償還 (3M・6M)	CP等買入 国債補完供給 ▲ 100 + 13,400		日：日銀支店長会議、黒田総裁あいさつ 日：日銀地域経済報告 米：NY連銀総裁、討論会に参加 欧：ユーロ圏財務相会合（ユーログループ）
7/12 (火)	+ 500	+ 2,000	+ 2,500				日：日銀営業毎旬報告（7月10日現在） 欧：EU財務相理事会
7/13 (水)	▲ 1,000	▲ 43,000	▲ 44,000	国債発行（5年） 源泉税揚げ			米：地区連銀経済報告（ページブック）公表 米：CPI（6月） 欧：ユーロ圏鉱工業生産（5月）
7/14 (木)	▲ 1,000	+ 4,000	+ 3,000				米：PPI（6月） 米：新規失業保険申請件数（9日終了週）
7/15 (金)	▲ 2,000	▲ 11,000	▲ 13,000	国債発行（20年） 国債発行・償還 （個人向け）			G20財務相・中央銀行総裁会議（16日まで） 米：アトランタ連銀総裁講演 米：ミシガン大学消費者マインド指数（7月）

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初税・保険揚げがあり、先週末対比3兆3,700億円減少の548兆6,200億円から始まった。その後は減少要因として6日に10年債の発行、増加要因として7日国債買入オペがあったが、週末8日の同残高は週初とほぼ横ばいの549兆5,100億円となった。

無担保コールON物加重平均金利は週初△0.022%であったが、週末にかけて大手行を中心に調達ニーズが強まり上昇していく展開となり、週末8日は△0.008%まで上昇した。ターム物では1W～2W物を中心に、主に△0.025%～△0.010%の水準で出合いが見られた。

来週の主な予定は、国内では7月の地域経済報告（さくらレポート）の公表（11日）などがあり、海外では6月の米消費者物価指数（CPI）の公表（13日）やG20財務相・中央銀行総裁会議（15日、16日）などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.060 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.030
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レボ>

足許GC取引は週初△0.11%近辺から始まり、週後半まで△0.20%～△0.10%台後半で取引された。短国3Mと6Mの発行が重なった11日受渡しは、レートの上昇は限定的で△0.15%近辺が出合いの中心となった。SC取引は2年430～438回債、5年148～151回債、10年350～366回債、20年170～180回債、30年65～74回債、40年9～15回債などに引合いが多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.001 ~ 0.001

<C P>

今週の入札発行総額は約9,900億円で、週間償還額（約2,300億円）を上回った。発行市場は、期明けの発行再開や足許の円安や燃料価格の高騰による資金需要の増加から、幅広い業種で大型の発行が行われた。発行残高は先週末の25兆7,326億円から、7日時点では26兆6,357億円に増加した。発行レートは、0%近辺中心の出合いとなり、一部発行残高が積みあがった銘柄においては若干のプラスレートでの約定も見られた。8日に、CP等買入オペが予定通り4,000億円で実施された。結果は、按分落札レート△0.001%・平均落札レート0.000%と、平均落札レートが前回（0.009%）比で低下した。

来週の週間償還額は、約7,500億円となっている。発行市場は、5・10日発行が予定されるため、取引は活況が見込まれる。発行レートは、0%近辺での出合いが多く、一部発行残高が積みあがった銘柄については若干のプラスレートを予想する。

<TDB>

7月7日の6M1092回債の入札は、最高落札利回り△0.1624%（前回債△0.0897%）、平均落札利回り△0.1693%（前回債△0.0996%）となり前回債から大きく低下、7月8日の3M1093回債の入札は、最高落札利回り△0.1348%（前回債△0.1222%）、平均落札利回り△0.1419%（前回債△0.1339%）と前回債から小幅低下となった。来週は15日に3Mの入札がある。